

【福岡①】

「福岡県ろうあ者耳の日記念集会参加して」

3月4日(日)春日市のクローバープラザにて、ろうあ者耳の日記念集会が行われた。

当日は、あいにくの雨であったが、会場は賑やかに笑い声や手話飛び交っていた。

「震災を通して学んだろう運動」と題して、全国手話研修センター職員(人材養成課)の岩本重雄氏の講演があった。氏は、全国検定試験の事務局もされているとの事。

まず、ご自身の事から家族(デフファミリー)の事、16年間勤めた「たつのこ作業所」の事、そして阪神大震災の経験。災害の状況の話から震災の後、救援本部を立ち上げ避難所を回ったり、戸別訪問をしたりしての安否確認、相談業務など・・・。

長い避難所生活で聞こえる人の中で暮らす少数のろうあ者(ほとんど孤立状態)。

彼らを支援してきて、手話ができることでできるボランティア。手話通訳ができることでできるコミュニケーション支援。手話サークルができること(手話サークルへのお願い)などをわかりやすく話された。地元、阪神地方の手話表現も交えての講演は、時間が経つのが早く感じられた。

万が一災害が起きた時、自分が助かることが一番なのは当たり前だが、次に大事なはお互いの助け合いにかかってくると思う。落ち着いて自分にできることは何か?を考えて行動したいと思う。

アトラクションの「日本剣道形」もよかったし(かっこよかったですよ)。

抽選は残念だったが、参加してまた一つ得した気分になれた集会だった。



【福岡②】

第40回 福岡県ろうあ者耳の日記念集会

平成23年3月6日(日) 於：北九州市ウェルとばた

去る3月6日、北九州市ウェルとばたにて、第40回福岡県ろうあ者耳の日記念集会が行われました。参加者数は約400名。

開場30分前から既に人が並んでいました。記念講演は財団法人全日本ろうあ連盟理事教育対策部長、内閣府障害者制度改革推進会議総合福祉部会構成員の西滝憲彦氏の講演でした。「障害者制度改革推進会議について」をテーマにして障害者自立支援に向けた法整備に関すること、現在展開中の「we love

コミュニケーション」パンフ運動の現状と今後のことを話して頂きました。

内容的に少し難しいと思いましたが、情報・コミュニケーション保障の必要性・重要性を再認識するいい機会になりました。

アトラクションは奈良ろう者劇団「大仏も笑う会」による『ドクターアフロ』音楽とダンスにズレがなく、ろうの役者さんの動きと声優さんの声がぴったりなのはびっくり！新喜劇さながらの面白さ&でもちょっとホロリとさせられるストーリーに引き込まれました。私は今回スタッフとして参加しましたが、スタッフメンバーには手話の会とろう協のほかコミュニケーション講座の方もいて、仕事の合間にプチ交流をしたりといい雰囲気の仕事を楽しむことができました♪

【佐賀】

第52回耳の日の集い

3月18日、第52回耳の日の集いが武雄市で行われました。

講演は『3.11東日本大震災から学ぶ』と題し、講師は被災地の一つである福島県の聴覚障害者協会会長、吉田正勝氏でした。震災直後の交通制限、ガソリン不足、放射能による外出制限等の問題が聴覚障害者の安否確認にも影響していたという話が印象に残りました。

今後は放射能関連の情報提供、災害時の手引き作成等が課題だそうです。

アトラクションは小学校や地元手話サークルによる手話コーラス、「琉球國祭り太鼓佐賀支部」の舞踊、砂田アトムさんによる一人芝居がありました。

琉球舞踊では観客も舞台に上がって踊ったり、太鼓を打ったりして会場が一体となり楽しむ事が出来ました。その後の砂田さんの一人芝居では、会場の雰囲気がガラッと変わり、演技力に思わず身を乗り出すほどに惹きつけられました。

とても充実した時間を過ごすことが出来ました。



【長崎】

「第43回 耳の日集会 in させぼ」

3月4日（日）佐世保市民会館で開催された「第43回 耳の日集会 in させぼ」に参加しました。「東日本大震災聴覚障害者救済埼玉本部支援活動と課題」と題して、東日本大震災聴覚障害者救済中央本部で支援活動された、小出真一郎 氏の講演でした。

現地での悲惨な様子や問題点 ①度重なる余震。②3日間は支援が届かず、食べる物もなく、24時間

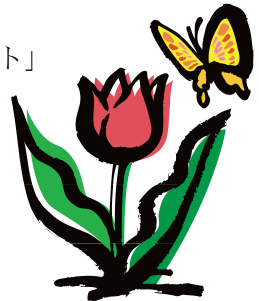
続く就労。③先の見えない不安、重なる心労。④安否確認、情報収集の難しさ。

東北は情報センターが少なく、設置通訳・手話通訳者も少ない。このような状況を反映してか、東日本大震災での死亡率は、障害者のない人と比べると、2 倍の死亡率となっているそうです。

私たちに出来る事は、災害を災害で終わらせないために、何が出来るのか考えましょう。

ある地域では、手話通訳者が派遣されたことによって、地元の行政や聴覚障害者の手話通訳についての理解が進んだそうです。・・・あとは、私たちの実践だと感じました！

午後からは、基礎講座を終了した人を対象とした手話発表会と、「アイコンタクト」の映画上映会が行われました。映画は、もう一つのオリンピック、デフオリンピックに参加した女子サッカー部のドキュメンタリーで、情熱と直向きに取り組む姿に感動しました。



【熊本】

「耳の日」事業

今年度の「耳の日」事業について県ろう協北支部（荒尾・玉名・山鹿・鹿本）と手話サークルわかぎとの行事を紹介します。

3月11日（日）玉名市中央公民館にて熊本県聴覚障害者情報提供センター所長の小野康二氏による講演、「障害者福祉の動向と聴覚障害者」と題して障害者の医学モデルから社会モデルへの考え方、例えば聴覚障害者であっても手話通訳や、要約筆記での情報保障をすれば障害が軽減できる、逆に健聴者であっても聞き取れない周波数があるし雑踏の中でのコミュニケーションは出来づらくなり障害を受ける事になる等、障害があるとはその個人ではなく社会に原因があるという考え方などの話をいただき、昼からは地域ごとの出し物。ろう者の「手話落語」から始まり、絵本「おおきなかぶ」の寸劇、くまもと聴障ビデオマガジン「みるっく」の再現、今年4月1日施行される「障がいのある人もない人も共に生きる熊本づくり条例」をとりあげ質問方式で会場の人々と考える等など。去年は「We Love パンプ」普及運動で県北地域それぞれの活動をしましたが、今年は久しぶりの合同「耳の日」事業で楽しい一日となり、又来年と意欲満々で終了しました。



【大分】

第44回耳の日記念大分県ろうあ者福祉大会

平成24年3月4日（日）豊後大野市「エイトピアおおの」にて、第44回耳の日記念大分県ろうあ者福祉大会が開催されました。

午前の式典では、「以前、手話の勉強をしていました」と豊後大野市長さんより、手話でご祝辞を頂きました。

午後からのアトラクションは、可愛いかけ声が響いた、どんぐり幼稚園の皆さんの太鼓の披露、太鼓バチの回転に目が釘付けになった、豊後の国エイサー同好会の賑やかなエイサーの披露、音楽に合わせて全員が参加した、手話サークル“吉四六”の体操、衣装や舞台道具は団員の方の手作りと聞き驚いた、中津ろう劇団“ひまわり”のまぶたの母の披露がありました。アトラクションの間にはクイズがあり、盛り上がりました。

その後、豊後牛やお米など、ご当地の商品が当たる抽選会があり、次回開催地へ引き継ぎ閉会しました。

今年初めて参加しましたが、お話に聞いていた以上に楽しく、あっという間の1日でした。



【宮崎】

宮崎県耳の日大会

第40回宮崎県耳の日記念大会が、3月25日、都城市で開催されました。

午前は「旧国道10号線の思い出」と題したビデオ映像で、地元のろう者の手話の語りと、昔の都城ろう学校など、懐かしい光景を見て、楽しみました。

午後は全日本ろうあ連盟機関紙部長の中村慎策氏による「東日本大震災と聴覚障害～災害対策のあり方～」と題して、講演がありました。

さいがいにおける聴覚障害ゆえの問題は、とにかく情報が入らない事。災害発生時や、避難所での情報など、課題は多くあります。

岩手には「津波てんでんこ」という言い伝えがあるそうです。「津波が来たら家族がばらばらでもいいから、とにかくにげろ！」という意味。

家族一人ひとりが、避難できる事を信じて、自分の身は自分で守る。常に、防災意識を持つ。そして、普段から地域でのコミュニケーションが大事だ、という事でした。

講演後は景品の抽選会で、会場が沸き、楽しい時間を過ごす事が出来ました



【鹿児島】

「手話で話そう県民の集い」

1981年（昭和56年）の国際障害者年を契機に、手話を通じて聴覚障害者や手話通訳などについて多くの県民に理解していただくとともに、聴覚障害者がニーズに合った福祉サービスを受けられることにより社会参加が進むようにとの願いを込めて毎年開催されている「手話で話そう県民の集い」も今年で30回を迎えました。平成4年の第11回目からは、地域の方々の手話への普及の理解を広めるため、各地域の協会が輪番制で開催してきましたが、協会の高齢化や会員減少などの理由で、今年のいちき串木野市を最後に平成25年からは鹿児島市でのみ開催されます。

その30回目の節目である今回の内容は、

- ①講演「見ることの大切さ」（ワークショップ方式）～講師 井崎哲也氏
- ②ミニパフォーマンス（サインマイム・デフユーモア）～講師 井崎哲也氏
- ③マジックトシマ「光と音のマジックオンステージ」～デフマジシャン 十島典弘氏
- ④フラダンス、龍踊り～いちき串木野市聴覚障害者協会・手話サークルひまわり

手話を全く知らない人でも楽しめる時間を共有しました。聴こえない人が得意とするマジックをプロによる光と音の不思議さを表現。また地元のフラダンスに涙が出るほど笑ってしまった。聴こえない人と聴こえる人とのとても大事な時間を過ごせて感激しました。

※いちき串木野市・・・鹿児島県薩摩半島西部に広がる吹上浜の北に位置する。古くから「つけあげ（さつまあげ）」の製造が盛んで全国に出荷されています。近年では「まぐろラーメン」「いちきボンカレー」「三大カツ料理」も有名である。



編集後記

平成23年3月11日東日本大震災に見舞われました。はや一年…。

混沌とした毎日ですが、皆様がつつがなきよう暮らせます事、宮崎の空の下祈っています。

九州で満開の桜の花、ひらひらと花びらが舞っています。

今年も無事にはっけん4月号を発行出来ました。ご協力に感謝致します。

九州手話サークル連絡協議会

事務局〒866-0892

熊本県八代市古閑下町1717-43 前淵洋一

TEL0956-35-2653

発行責任者 中本教博

広報担当者 平野敏江(宮崎)

発行月日 平成 24 年 4 月 9 日